

(3) ソーシャルワーク教育における実習未経験学生のコンピテンシー習得状況

—質問調査から—

医療福祉学研究科医療福祉学専攻修士課程 ○岡 永遠

医療福祉学研究科医療福祉学専攻 竹中麻由美

【目的】

ソーシャルワークを学ぶ実習生のコンピテンシー習得状況を明らかにすることで、ソーシャルワーク教育課程における実習教育について検討する。

【方法】

対象：岡山県内の4年制大学5校で、社会福祉士養成課程に所属する2年生のうち2024年10月時点でソーシャルワーク実習を経験していない学生のうち同意を得られた者。

内容：87項目6カテゴリー（基本的学習能力，社会的能力，価値，知識，技能，実践的能力）から構成する「ソーシャルワーク実習における学生のコンピテンシー習得状況に関する質問調査」を実施。回答は、1(まったくできていない)～5(とてもよくできている)の5件法。

【結果】

対象者148名中、回答者143名、有効回答数141。各カテゴリーの平均値は、「社会的能力」(3.74)が最も高く、「知識」(2.70)が最も低い。87項目中、最も平均値が高い項目は「守秘義務を守ることができる」(4.60/カテゴリー：実践的能力)であり、

上位5項目中3項目が「カテゴリー：社会的能力」から抽出された。87項目中、最も平均値が低い項目は「ネゴシエーションについて説明できる」(1.86/カテゴリー：知識)であり、下位5項目中全ての項目が「カテゴリー：知識」から抽出された。

【考察】

「あいさつ」,「時間厳守」等の項目を含む「カテゴリー：社会的能力」は、実習以外でも求められるため、礼儀や常識として身につけていたと推測される。社会人として求められる「社会的能力」をソーシャルワーカーとしての実践につなげる必要がある。「カテゴリー：知識」で習得状況が低かった「ネゴシエーションについて説明できる」等の専門用語の解説に関しては、各大学の座学での学びが影響している可能性がある。

【まとめ】

6カテゴリーの平均値を確認すると、「社会的能力」が最も高く、「知識」が最も低い。しかし、評価の方法が学生の自己評価であるため、コンピテンシー習得状況の評価方法について検討する必要がある。